

取材で分かった意外と知らない「ツウな情報」を、お伝えします。

知ってたら

# 桑名通

kuwana tsu!

## 桑名の千羽鶴こぼれ話

意外と簡単？一枚から97羽の連鶴！

今月号の表紙にもなっている「百鶴」は、桑名の千羽鶴の中で最も鶴の数が多し折り方。見た目から、折るのが難しいと思われがちなのですが、実は49種類の折り方の中でも簡単な方です。

普通の一羽の鶴さえ完璧に折ることができ、根気よく折っていけば完成するのだとか。ただし、図面は書くのが難しいため、ここがうまく作れるかどうかのポイントです。  
また、「百鶴」という名はついていますが、実際は100羽ではなく97羽です。まん中の大きな親鶴が子鶴4羽分と大きいため、全部で97羽の鶴となっています。これは意外と知



られていない事実かも。  
手漉き和紙がおススメ！

和紙の種類は色も大きさも厚さも大変豊富にあります。手漉き和紙は、楮・三椏・雁皮という植物の繊維を主原料として作られ、洋紙と比べて繊維がからみ合うため、ちぎれにくく、職人が手で漉いているので大量生産の紙と比べて一枚ごとに面白い味も出ます。また、大きさは2尺×3尺のサイズが適しています！



## 市長がふれる！

# 本物力

No.13

桑名の千羽鶴

今月の特集は「桑名の千羽鶴」です。

羽鶴の発祥の地は桑名であることが証明され、一躍脚光を浴びました。

一般的に千羽鶴というと高校野球などで必勝を祈願するときによく見かける一枚の紙でつくった鶴を糸でつないだものを言います。

現在は桑名市無形文化財でもある「桑名の千羽鶴」ですが、わたしはこれまでも「妹背山」や「青海波」など、さまざまな種類の連鶴を折ったことがあります。

しかし、「桑名の千羽鶴」は、一枚の和紙に切り込みを入れることで、2羽から最高97羽の鶴をつないでいく独特の折り鶴です。

二羽の子鶴のくちばしが付いているものです。

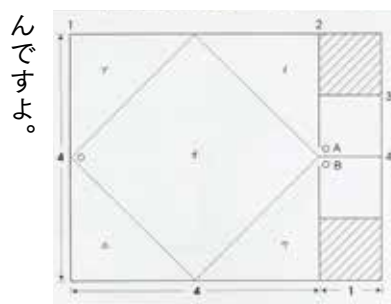


その歴史は江戸時代にさかのぼります。市内長圓寺の住職、魯縞庵義道が考案しました。一昨年、義道が書き残した、千羽鶴の原典「素雲鶴」が発見され、千

いただき、一緒に折りました。桑名の千羽鶴は、紙に対するこだわりもあります。連結部分が細く、折り曲げること多い、おまけに両側から引っ張られるため、日本銀行券に匹敵する強度のある紙が必要、ということと繊維の丈夫な本手漉きの越前和紙を使用している



手に持ったまま折るのが桑名の千羽鶴



これが「昔男」の展開図！



ジュニアサミットでも海外からの学生たちから連鶴は人気。一枚の紙から、手の中でパパパッと折っただけで、つながった鶴を作ってあげると、日本人はすごい！と大変驚かれ、喜んでくれました。

六華苑や博物館で体験もできますので、まだ折られていない人はぜひ一度チャレンジしてください。最近一枚の和紙に切り込み線を書き込む（製図する）のが面白いということで男性のファンも増えてきているそうです。意外とはまるかもしれませんよ。